

陳 情	受 理 番 号	183	受 理 年 月 日	令和3年4月15日	付 託 委員会	都市建設 環境
件 名	浦添市西海岸の保全活用に関する陳情					

浦添市西海岸の保全活用に関する陳情

【陳情の趣旨】

1. 浦添西海岸における開発計画と那覇軍港移設に関する「3者合意」を見直し、浦添西海岸を、今のままの形で残しながら保全活用してください。
2. 自然環境と調和した新しい環境保全型の都市計画の実現のために、今後の開発計画においては、行政関係部署のみで計画を協議するのではなく、都市計画や自然環境の専門家および市民と協働で計画を策定する協議の場を設置してください。

【陳情の理由】

那覇市に隣接し浦添市の前に広がる浦添西海岸には、貴重なサンゴ礁とイノーが残されています。ここに対する那覇軍港移設および西海岸開発計画の埋立案に対し、浦添市民や、日々広大なイノーを目にする多くの県民の間では、「自然の海を残してほしい」との声が広がっています。

里浜22では、浦添西海岸について以下のように考えています。

1. 南北約3キロ、東西約1キロに広がる浦添西海岸は、将来の子ども達も亜熱帯の生態系や生物多様性を学び実感できる、都市部に残された貴重なイノーです。
2. カーミージー周辺は、地元の里浜活動や港川小学校を中心とした自然観察学習の場として15年以上も活用され、満潮時はカヌー体験にも利用されています。西海岸道路開通後は、西洲寄りにおいても護岸から夕日を眺めたり、イノーでアーサ採りを楽しむ県民や観光客が急増し、学習や観光への利用価値の高さを示しています。
3. 浦添西海岸のイノーは、キャンプキンザー返還後の跡地利用やまちづくりにおける、重要な自然環境としての役割を果たすと考えます。
4. 温室効果ガス排出による気候変動と自然災害は、年々深刻さを増しています。海面上昇は、埋立地や沿岸都市にとっての脅威です。これらに対し、サンゴ礁は天然の防波堤であり、生物多様性のホットスポットでもあります。イノーの海草藻場はCO₂を吸収するブルーカーボンの機能を持つ場所です。沖縄県もSDGs推進方針を定め、日本政府も2050年のカーボンニュートラルを宣言しました。社会はすでに、西海岸開発計画が策定された時代とは、明らかに異なっています。
5. カーミージー周辺は保全海域とされていますが、高水温や乱獲により生物の種類や数が激減していることが、イノー観察会などを通して確認できます。浦添西海岸は、カーミージーから西洲側まで地形

的に一続きの生態系であり、また西洲側には大きなサンゴ群落が確認されています。浦添ふ頭建設や那覇軍港移設に伴う埋立計画は、この海域のサンゴ礁やイノーの生態系に、さらに致命的な影響を与えます。

6. 西海岸開発計画と那覇軍港建設の合意について見直しを行い、自然環境と調和した新しい環境保全型の都市計画を市民と協働で作る方向こそが、SDGsの理念にも合致します。

国連がSDGsを推進する中、環境保全は、今や全世代、全世界共通の目標です。自然から搾取することで発展してきた20世紀型の経済社会の在り方を再考し、自然環境の価値を認め、これを保全しつつ発展する、自然と調和のとれた21世紀型の社会に転換していく必要があります。

そして私たちは、22世紀の沖縄に、豊かで美しい里浜が残されていることを望みます。身近な自然のイノーは、今後の市民生活の質の向上、観光振興、まちづくり等に活かすことができます。

海の新しい価値を創造し、沖縄ならではのグリーン経済を実践するために、浦添西海岸における開発計画と那覇軍港移設に関する「3者合意」の見直しを要望します。

以上.